

番 号
令和6年6月28日

佐賀県県民協働課長 様

住所 東京都新宿区高田馬場3-13-1-2F-A
団体名 一般社団法人ピースボート災害支援センター
代表者職・氏名 代表理事 山本 隆
電話番号 03-3363-7967

佐賀県ふるさと寄附金「NPO等を指定した支援」による
寄附金活用実績報告書

令和5年度において、当団体に交付された佐賀県ふるさと寄附金「NPO等を指定した支援」を活用して別紙のとおり事業を実施したので、佐賀県ふるさと寄附金（「県民協働の地域づくり」及び「NPO等を指定した支援」）による寄附金交付要綱第21条第1項の規定により提出します。

年度 佐賀県ふるさと寄附金「NPO等を指定した支援」による寄附金活用実績報告書

- 1 団体名 : 一般社団法人ピースボート災害支援センター
- 2 事業実施期間 : 令和5年4月1日から令和6年3月31日
- 3 事業の背景 (※事業計画書から転記)

■事業の実施により実現したい佐賀県の地域像

平時にはコミュニティフリッジ（無人型のフードバンク）によって地域の連帯感を醸成し、食品のシェアを奨励するとともに、生活に困難を抱える方々への経済的支援を提供する。
災害時には、炊き出しをはじめとした被災地支援活動を実施し、被災住民のより早い生活再建を推進する。
この地域像は、災害への備え、相互扶助、生活困窮者支援に焦点を当てており、誰ひとり取り残されない地域の実現に貢献する。

4 事業の成果

①県民の便益にどのようにつながったのか

平時においてコミュニティフリッジ（無人型のフードバンク）によって地域の連帯感を醸成し、食品のシェアを奨励するとともに、生活に困難を抱える方々への経済的支援を提供するための準備を進めた。佐賀県大町町との協定を結び、実施に向けて取り組みを進めた。
他県で発生した災害において、炊き出しをはじめとした被災地支援活動を実施し、被災住民のより早い生活再建を推進した。今後佐賀県内で災害が発生した際にはより良い支援活動を実施するために、これまでの被災地支援活動で得た経験・知見を活かしていく。

②佐賀から広がった社会像（該当する活動のみ）

フードトラックを活用したコミュニティフリッジはおそらく全国初の取り組みであり、本事業の有効性を実証することで、自治体等で所有されているキッチンカーの平時の活用・運用方法等としても、今後視察の受け入れ等も検討しつつ普及・展開をしていければと考えている。
実際に令和6年能登半島地震では緊急支援として佐賀から能登半島へとフードトラックを持ち込み、現地で炊き出し等の支援を多数実施した。資機材を積んでそのまま現地へと向かい、炊き出しを実施できるその即応性と機動力は、今後の災害対応にも有用であると考えている。

- 5 寄附金活用事業実績 : (別記1)
- 6 次年度繰越額活用見込み : (別記2)
- 7 寄附金活用額 : (別記3)

(別記3) 寄附金活用額

【収入】佐賀県ふるさと寄附金収入額 … ① (=A+B)		374,000
(内訳)	本年度の佐賀県ふるさと寄附金収入額 … A	374,000
	本年度交付を受けた佐賀県ふるさと寄附金分	374,000
	前年度控除額(県事務経費)還付分	0
	前年度収入済の佐賀県ふるさと寄附金繰越額 … B	0

【支出】佐賀県ふるさと寄附金活用額… ② (=a+b)		374,000
(内訳)	事業に活用した寄附金額 … a	175,890
	ふるさと納税の募集に要した費用の額 … b	198,110
	返礼品等の調達に係る費用	117,900
	返礼品等の送付に係る費用	21,000
	広報に係る費用	24,310
	事務に係る費用	34,900

佐賀県ふるさと寄附金の次年度繰越額 … ③ (=①-②)	0
-------------------------------------	----------

■直近の収支報告書掲載箇所(ホームページURL等)

https://pbv.or.jp/about_pbv/about_pbv_03